

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
吳哥古迹・・・アンコール遺跡 峇樓・・・山のように高いたかどの				仰 ○	清 ○	幽 ●	吳 ○	西郊日暮
				望 ○	境 ●	寂 ●	哥 ○	
				夕 ●	西 ○	岑 ○	古 ●	
				麗 ●	風 ○	樓 ○	迹 ●	
				感 ●	天 ○	聳 ●	緑 ●	
				無 ○	欲 ●	半 ●	林 ○	
				窮 ◎	暮 ●	空 ◎	中 ◎	

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

その他のメモ
カンボジアのアンコール遺跡群を初めて訪れた。 実際は真夏の訪問だったが、詩題に合わせてみた。 遺跡の高台から見た原生林越しの夕景は思い出深い。

読 み 下 し 文			
仰 <small>あお</small> ぎ望 <small>のぞ</small> む夕麗 <small>せきれい</small> 感 <small>かん</small> 窮 <small>きわ</small> まり無 <small>な</small> し	清境西風 天 <small>てん</small> は暮 <small>く</small> れんと欲 <small>ほつ</small> す	幽寂 <small>ゆうじやく</small> たる岑楼 <small>しんろう</small> 半空 <small>はんくう</small> に聳 <small>そび</small> ゆ	西郊日暮 吳哥古迹 緑林の中

作詩日	平仄式	名前
平成二九年九月九日	平起式	牛山 知彦

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

作詩日 平成 29 年 9 月 13 日

名前 梅村 郁郎

結句	転句	承句	起句	詩題
眉	此系	野	雨	西郊日暮 (東韻)
月	紫薇	邊	霽	
似	燦	啾	残	
花	爛	啾	陽	
君	十	虫	雲	
似	三	聲	長賓	
風	夜	中	紅	

読み下し文

秋雨霽のべ 残陽 雲長賓 紅し
 のべ しゅうしゅう ちゅうせい ほか
 野辺啾啾 虫声の中
 しんべい さんらん じゅうさんや
 此系 薇燦爛の十三、夜
 べげつ はな に 似て 君風に似て

その他のメモ

名簿 No. 3

語註・典故・作詩メモ

● 雨云 秋霞 紅
 (雨云のようだ)
 不きふさとしに美しい秋夜が夕日に
 九木めらんと紅く映る
 ● 此系 紫薇
 ……ささすべし、ミツハギ科の落葉
 高木
 ● 十三、夜
 ……陰曆九月十三日の他の月

神漢連 九詩期会 詩箋 [七言絶句]

結句	転句	承句	起句	詩題
想 ●	夕 ●	村 ○	涼 ○	西郊日暮
望 ○	照 ●	圃 ●	風 ○	
先 ○	西 ○	蕎 ○	野 ●	
妣 ●	天 ○	花 ○	渡 ●	
静 ●	帰 ○	秋 ○	散 ●	麻韻)
煎 ○	鳥 ●	色 ●	暮 ○	
茶 ◎	影 ●	嘉 ◎	霞 ◎	

秋の景色は趣のある中に、何故か寂しさも感じられ、ふと、昨年亡くなった母を想いながら独り茶を喫した
先妣：亡母

作詩日	平起式	名前
H29・9・8		武田 一郎

文 し 下 み 読		
涼風野を渡り暮霞を散ず りようふうのわたほかさん	村圃蕎花秋色嘉 そんほきよかしゆりよあし	夕照西天帰鳥の影 ゆうしよせいてんきちようかげ

その他のメモ
秋の涼風が野を吹き渡り夕霞を払った
むらの畑は一面の蕎麦の花で秋の風情が感じられ
夕焼けの西空には葉に帰る鳥の影が見える
亡くなった母を想いながら静かに茶をいれ喫した

想望先妣静かに茶を煎
そうぼうせんひしずちやにる

語註・典故・作詩メモ	
起句：定家 見渡せば 花も紅葉も なかりけり 承句：寂蓮 浦の苫屋の 秋の夕暮れ 転句：西行 心なき 身にもあはれは 知られけり 秋の夕暮れを歌った「三夕の歌」を七言で翻訳してみた	秋の夕暮れを歌った「三夕の歌」を七言で翻訳してみた

その他のメモ	
「三夕の歌」は新古今和歌集の「秋上」に三首連続で収録されていて、いずれも三句目を「けり」で切り、五句目を「秋の夕暮れ」で結んでいるのが特徴。 「西郊日暮」の秋の野辺（野原）を歌ってはいないが、秋の日暮時の情趣は多少とも、。	

結句	転句	承句	起句	詩題
総 ●	自 ●	蒼 ○	紅 ○	題新古今集三夕 (尤韻)
是 ●	憐 ○	蒼 ○	色 ●	
王 ○	啼 ○	真 ○	皆 ○	
朝 ○	鳴 ●	木 ●	無 ○	
三 ○	飛 ○	彩 ●	苦 ○	
夕 ●	翔 ○	哀 ○	屋 ●	
秋 ◎	沢 ●	愁 ◎	頭 ◎	

読み下し文				
総て是 王朝 三夕の秋（の夕暮れ）	自と憐れなるは啼鳴の沢からの飛翔	蒼蒼たる真木も哀愁を彩る	紅色の皆く無き 苫屋の頭	新古今集 三夕に題す

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

作詩日	平仄式	仄起式	名前
平成二十九年九月十四日			原田睦夫

精	輕	承	起	題	平起式 「尤」讀 名前平賀康成
蛩 ○ (△)	庭 ○ (△)	荷 ○ (△)	西 ○ (△)	山寺感秋	讀み下し文
聲 ○ ○	院 ● ●	朽 ● ●	風 ○ ○		
唧 ● (△)	無 ○ (△)	菊 ● (☆)	蕭 ● (△)		
唧 ● ●	無 ○ ○	衰 ○ ○	颯 ● ●		
野 ● ● (△)	生 ○ ○ (△)	楓 ○ (☆)	寺 ● ● (△)		
情 ○ ○	晚 ● ●	葉 ● ●	門 ○ ○		
幽 ○ ○	氣 ● ●	稠 ○ ○	頭 ○ ○		
蛩 古 唧 唧 野 情 幽 なり	庭 院 無 く 晚 を 生 じ	荷 朽 菊 衰 之 楓 葉 稠 なり	西 風 蕭 颯 寺 門 頭		

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
遊び帰りの子供達の歌声と田畑に吹き渡る秋風に、 故郷を思う。病に倒れた旧友からの便りは途絶え、 明る過ぎる落日に涙するも、何をか恨まんや！				涙 ●	病 ●	田 ○	幼 ●	西郊日暮
				珠 ○	臥 ●	野 ●	児 ○	
				何 ○	旧 ●	西 ○	帰 ○	
				恨 ●	知 ○	風 ○	路 ●	
				夕 ●	音 ○	故 ●	唱 ●	(庚韻)
				陽 ○	信 ●	里 ●	歌 ○	
				明 ◎	絶 ●	情 ◎	声 ◎	

読み下し文				作詩日	平起式	名前
涙珠何ぞ恨まん夕陽の明なるを	病臥の旧知は音信絶え	田野の西風に故里の情	幼児の帰路に唱歌の声	平成二十九年九月十二日	古川 彌	

その他のメモ

古川 彌

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

結句				転句				承句				起句				詩題	
西	○			一	●			夕	●			金	○			西郊日暮 (庚韻)	
郊	○			片	●			月	●			風	○				
景	○			詩	○			疑	○			玉	●				
物	●			思	○			弓	○			露	●				
画	●			眺	●			暮	●			動	●				
中	○			望	○			色	●			秋	○				
行	◎			處	●			生	◎			声	◎				

その他のメモ			
<p>金風 秋風 玉露 美しき露 詩思 を詩作る考え</p>			

読み下し文			
西郊 <small>さいこう</small> の景物 <small>けいぶつ</small>	一片 <small>いつぺん</small> の詩思 <small>しし</small>	夕月 <small>ゆうつき</small> 弓 <small>ゆみ</small> と疑 <small>うたが</small> う暮色 <small>ぼしよく</small> 生 <small>しょう</small> ず	金風 <small>きんふう</small> 玉露 <small>ぎよくろ</small>
画 <small>が</small> 中 <small>ちゆう</small> に行 <small>ゆ</small> く	眺望 <small>ちやうぼう</small> の處 <small>ところ</small>		秋声 <small>しゅうせい</small> を動 <small>うご</small> かし
			西郊 <small>さいこう</small> 日暮 <small>にちぼ</small>

作詩日	平成二九年九月	平起式	名前	松本祐輔
-----	---------	-----	----	------

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

結句	転句	承句	起句	詩題
西 ○	眼 ●	細 ●	柴 ○	西郊日暮 (陽韻)
山 ○	下 ●	徑 ●	門 ○	
落 ●	鴉 ○	無 ○	柿 ●	
日 ●	群 ○	人 ○	熟 ●	
彩 ●	飛 ○	上 ●	古 ●	
雲 ○	曠 ●	小 ●	僧 ○	
長 ◎	野 ●	岡 ◎	堂 ◎	

今回の「西郊日暮」の題には困った。情景が浮かばない。童謡の「夕焼け小焼け」でいこうとやってみたがダメ。やむなく前半は。以前書いた大船の常楽寺・木曾義高の墓の二句を流用。

読 み 下 し 文

その他のメモ	読	み	下	し	文
<p>転「眼下帰禽飛曠野」</p> <p>結「西山落日發光芒」↓光も芒も陽韻(冒韻?)</p>	<p>西山 <small>せいざん</small></p> <p>落日 <small>らくじつ</small></p> <p>彩雲長し <small>さいうんながし</small></p>	<p>眼下 <small>がんか</small></p> <p>鴉群曠野を飛び <small>あぐんこうやをと</small></p>	<p>細径人無く <small>さいけいひとなく</small></p> <p>小岡を上る <small>しょうこうのぼ</small></p>	<p>柴門 <small>さいもん</small></p> <p>柿は熟す古僧堂 <small>かきじゆくこそうどう</small></p>	<p>西郊日暮 <small>せいこうにちぼ</small></p>

作詩日	平仄式	名前
平成29年9月14日	平起式	山口 幸雄